

事業主体

成蹊大学 ボランティア支援センター

調査研究名

東北と日本の未来プロジェクト 2019in 南相馬

調査研究の概要

全国の多くの人々が南相馬市を訪れることが、過疎化の打開策になるのではないかと考え、まず南相馬市の魅力ある資源(町、自然、環境、人)の現地調査を実施(2019年8月5日～8月8日)。その後、調査で得られた情報をもとに南相馬市を全国にPRするパンフレットと4本の動画を作成した。

実施内容

8月5日	南相馬市が震災でどのような被害を受け、現在に至るのかを知るために、観光ボランティアガイド岩橋光善氏に案内をしていただく。消防・防災センターや海岸沿いを回り大悲山の杉などを見学した。
8月6日	広報チームとドローンチームに分かれ、それぞれに取材。広報チームは野馬追の旗指物を制作している西内清実氏の工場を見学し、野馬追の歴史や旗について伺う。ドローンチームは雲雀ヶ原祭場で空撮を行う。その後合流し博物館の学芸員の方から旗についての詳細な説明を受けた。その後、ロボットテストフィールドで福島県イノベーションコースト構想について伺いドローン操縦体験と研究棟を見学。
8月7日	広報チームは南相馬市食生活改善推進連絡協議会 会長渡辺純子氏の指導の下、地元食材でホッキ飯など郷土料理作りを体験。ドローンチームは相馬牧場前のひまわり畑で空撮を行う。その後全員で野馬追伝承会の方と交流会を持ち、実際に撮影された野馬追の動画や旗を見せていただく。
8月8日	復興大学シェアオフィスをお借りし、振り返りを行う。東京に戻り「野馬追」「食」「自然」「ダイジェスト版」の動画と、パンフレットを作成した。その後、学内で学生を中心に議論を進め、広報チームが関係人口増加を図るため南相馬市のパンフレットを500校の大学ボランティアセンターとその課に送付した。ドローンチームはSNSで4本の動画を配信。ちなみに「ダイジェスト版」は本センターTwitterの掲載中、最多いいね！を獲得！

調査研究期間

平成31年8月5日～令和2年3月31日

南相馬市の課題

調査研究により

全国的にみると、ドローンの飛行ルールに適合する場所は少なく、そのドローン飛行に適した場所が南相馬市。さらにロボットテストフィールドでは最先端の技術を研究している。南相馬市はドローン飛行の優位性と、ロボット事業研究の最先端という環境にありながら、その強みをアピールできていないというのが、現状ではないか。このことを広く周知させ、イメージを定着することが街の活性化につながる。

という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

問題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

「南相馬市をドローンの聖地にする」ためのアイデア

- 1) ドローンを活用した事業提案
- 2) 廃校を利用したドローン学習事業と宿泊施設

1) に関しては観光地での記念写真撮影をドローン空撮で行う事業。バイクの走行をドローンで撮影する事業。この2つの事業で南相馬市に来訪する人を増やす。

2) 安価な設定でドローンの学習を、親子で廃校を利用して行うという提案です。施設の一部に宿泊施設を設け、食事は地元の野菜や水産物を提供し、ALL 南相馬をPRする。これらのことは南相馬市のイメージ定着の一助になると思う。今後全国の人に訪れてもらい南相馬市に愛着を持つリピーターを増やすには、おもてなしの心を持ち、住民の意識改革とサービスマナーを学ぶ場の提供も、不可欠ではないか。